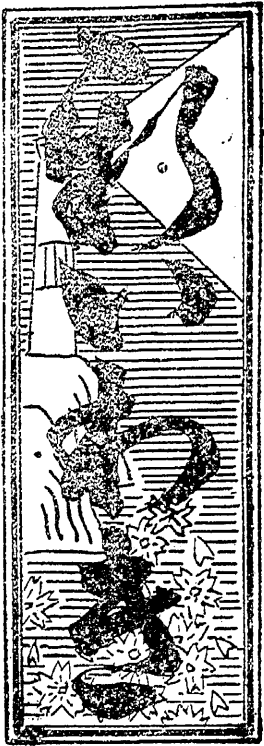


【刊夕】日一月七



休日 日曜大祭日
毎月 二十五日
発行所 新報社
印刷所 新報社
電話 四〇二番
社址 新報社

曾我平第一校長が

果して平町助役か

町長の承認は得ても推し
た一派の大勢支配に疑問

平町の後任助役は慶報の如き更に開知せざる態
く町議各派の意向が一致せざるを以て右に就て
す佐々木龍若氏を適任とす某氏は語る
一派及び部内出身で縣廳
に奉職中の少壯者を引抜か
うとするもの夫れに最近

曾我同 第一小學校

長を推さんとする一派が現
はれて何れも相當の暗中飛
躍を以て從つて可成の難産
を想像されてゐたが前記噂
の人である曾我氏が校長の
辭表を提出したと
傳へられるに至り同氏の後
任説が即今有力視される所
となつた曾我氏の腹が果た
して校長辭職までに決まつ
たものとすれば從來屈指さ
れた

今日小名濱町にて

青訓生の攻防演習

創設五週年を記念して

平町及び小名濱町の青年訓
練所は共に創設五週年を記
念して今日一日兩所聯合の
攻防演習を行った軍の編成
は平町二個中隊を北軍とし
て藤井少尉これを率え小名
濱町の
一箇中 隊を南軍に
西牧曹長の指揮とし小名濱
平野進出を容易ならしむる
任務を以て午前七時湯本町
戦となり午前十一時兩軍共
こき使ふはよいが遊ぶと

候補者

中比較的無
難らしくも囁ひられてるが
同氏を推す一派の運動が盛
に則長の内諾あるものとし
て如何なる程度まで大勢を
支配し得るかに疑問がない
ではなく今日

新聞記者に包圍さ

れた伏見町長は曾我助役推
東端に達し前夜米崎崎港よ

小名濱小學校に集合壯烈
なる開兵分列式の後
講評並に祝辭あり
て食午後一時終了散兵後
一同清遊を試みて日没歸軍
した

郡農總會

改選に詮衡
説と投票説

石城郡農會の役員選舉總會
は既報の如く昨日午前十
時から平町團體事務所樓上
に開議され開會直に選舉方
法の附議に移つたが志賀兼
吉(豊岡)氏の詮衡委員説に
對し鷲重三郎(錦)氏の投票
説が相拮抗し一時流會を呈
はせぬかと物議騷然たるも
のあり鈴木道治(警崎)氏の
折衷案會長以下縣農會議員
まじを投票に評議員を詮衡
委員によつて決定すること
になつたのは午後一時過ぎ
右仲裁案によつて決したる
役員左記の如く午後三時開
會直ちに同町マルトモホー
ルに於て懇親會を開き同四

石城地方の

春蘭相場

白三圓一錢
黃三圓〇三錢

石城郡の春蘭相場は收購減
のため落場高を示し昨日日
四倉及び植田兩市場の取引
左記の如くであるが四倉は
愈も明日限り市場を閉す
植田尚ほ二、三日繼續の線
定である

四倉市場白蘭總出荷、五
二〇貫、最高三圓三錢廿
八錢、最低二圓七七八錢
買訓三圓一錢、黃蘭總
出荷一〇八圓九百九、最
高三圓十五錢、最低二圓
七八錢、買訓三圓三錢
迄の取引累計二萬七千五
百二十七貫四百五十九
植田市場白蘭總出荷五七
二貫、最高三圓三錢、最
低二圓九十錢、買訓總
計

川柳

浮からくり(六)
世からくり(六)

十寸叟生
駕籠賃をやつて女房はつ
んとする

昔はだかかか買明治時代
は傳寶現代は自動車賣へテ
行先はどこやら
調法のやうで邪魔な女
房なり

客の座へ前垂掛けは失禮と
想

今日から實施の減俸

石城の小學で七十圓

該當する校長は平町の
三ヶ校外郡部で七ヶ校

出荷七十六貫、最高三圓
十六錢、最低二圓九十錢
の累計一萬二千六百六貫

今七月一日から實施される員は平第一校長の一ヶ月九
減俸で教員連に及ぼす影響同第二校長の八圓同第三
は月俸百八十八圓が百六ヶ校長の三圓減の外左記十ヶ
五圓百四十五圓が百廿六圓校長で總額約七十圓である
百四十圓未満から百三十圓

現給額 と百廿圓と
の差額に百廿二圓を加へた
もので但百三十六圓を超え
てはならぬ百廿圓以上百卅
圓未満は現給と百の廿圓と
差額に百十四圓を加へ但
百廿二圓を超ゆる

ことを得ずと云ふ百圓以上
の現給者に野菜代程の收入
減があるのみで一般改正給
高荷一〇八圓九百九、最
高三圓十五錢、最低二圓
七八錢、買訓三圓三錢
迄の取引累計二萬七千五
百二十七貫四百五十九
植田市場白蘭總出荷五七
二貫、最高三圓三錢、最
低二圓九十錢、買訓總
計

それをばつして出て来た内
儀まあそう御遠慮なさらず
と最一つお酌いたしませう
と愛想よく強ひる巧さ
ま、母と見へて泣く子に
いつも勝ち

縁重なしつけならよいが
縁味憎をきたならぬは
二度目なり

一遍家庭を持つて覺へがあ
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか

嫉妬の反面
お美しかつたさうだと後
妻云ひ
二度添ひの軽い格氣

憎ま
或カフエー
で或女給の六馬鹿野郎これが男の正體
曰く、一體なんだ、だから諺に曰く良
男つても、男に女に甘ん
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか

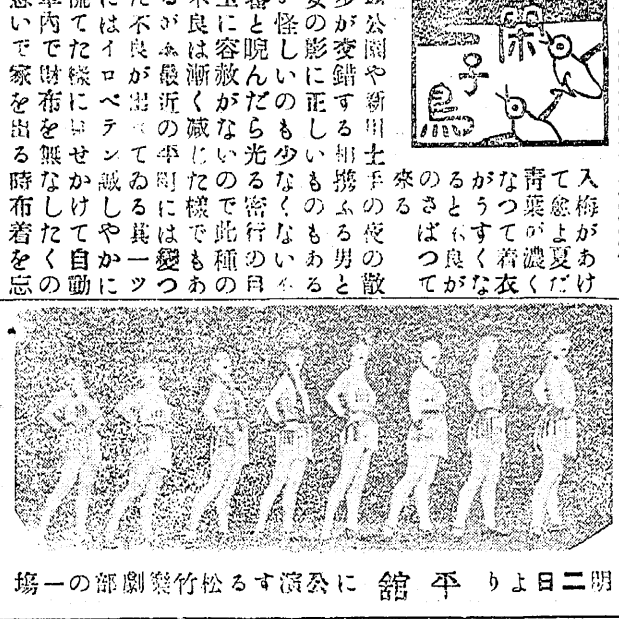
れ口

憎ま
或カフエー
で或女給の六馬鹿野郎これが男の正體
曰く、一體なんだ、だから諺に曰く良
男つても、男に女に甘ん
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか

憎ま
或カフエー
で或女給の六馬鹿野郎これが男の正體
曰く、一體なんだ、だから諺に曰く良
男つても、男に女に甘ん
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか

憎ま
或カフエー
で或女給の六馬鹿野郎これが男の正體
曰く、一體なんだ、だから諺に曰く良
男つても、男に女に甘ん
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか

入海があげ
て夏だ
青葉が濃
がうすく
ると良
のさばつて
來る



場一の演劇劇竹松の演公に館平りよ日二明

となんだ、男は入で造つた
ものさ、そして女にのろく
鼻下長で目尻を下げて尻手
までぬかれても満足を表
かげであかんべいをさ
かげで無上の光榮と存じてある
かたは、だから諺に曰く良
男つても、男に女に甘ん
はどんなものでせう？馬鹿な
にそんな云ふことに事をか
へてお前の様なすれ切つた腹に、男に女、どうだ判
ものが誰よりも知つて居るこつたか



**茄子肥料と
種子茄子**

種子の採り方
種子の選抜をしたならば一番成はやく、早目に収穫して酒技に結実したる二番成をそのまゝ生育させて三番成以後のものには之れも稍早目に収穫し専ら二番成の成育を計るのである、充分に成育して顔の色が黄褐色に變じた後収穫して、まゝ、堆積して置いて充分後熟させてから、水の中で揉み出したし良く水洗ひをなし、日陰で乾燥する、以上は優良種の採種方法である

普通の種子、販賣用として多量採種のため一般に應用される方法には一番成、二番成は収穫して販賣用となし、三番成以後のものを、そのまゝに成育させて一株から六、七個以上を成熟させて後、優良種採種法に述べたと同じい收穫の所置をして採種するのが普通である、餘り結果が遅いもの或は多数結果したるもの、中には未熟のものがあるから注意せねばならぬ、それから交配種子を云つて見やう、一代交配を行つたものは主として樹熟が強く、壯で結果も多く豊産であるからこの性質を應用して優良種の採種となすこともあ

スペイン G.H.N元 詰
甘味葡萄酒
ゴルフポートワイン
¥ 1-10
御婦人の方には少し水を加へて召しよかき風味一そう佳良です
(平二) 西村屋薬舗 (電三)

**急ぎの需めに
應じます**

驚異的の効果を
有する婦人薬

看護婦派
警城看護婦會
電話二五七番

座薬 美神丸
内服薬 美神湯
婦人病に悩む方々に一度は實驗を勧む

町代理店 平町五丁目角
山野邊藥局

債券、公債、爲替金融
多田井質店
平町大工町
電話五九一番

染毛赤染がらま
八雲

黒髪之美!
ツツクらと結び上げた髪は、その艶、その容、その魅力! それは「八雲」御用の髪です

石川製藥所
大阪市北区
北心町二丁目

平町發賣所
五丁目 **山野邊藥局**

お醬油は ヤマフル

醬油 味噌
たひら正宗
經節食料品

鹽屋
山崎合名會社
福島縣平野町
電話(本) 店部二七〇番

醫院開業
私儀今般左記場所を醫院を開業一般診察に従事致すべく候

平町新川端(釜屋新宅向)
難波醫院
醫學博士 難波 睦
電話五〇二番

内科一般 (午前診(午前九時より)午後往診) 但し急患は此限りに非ず

**新装のカフエー
タヒラ**

皆様のお蔭によりまして
近代的な改造致しました
食堂に
ごうぞお出で下さいませ

各品共従来の通り勉強いたします
平野前 **カフエータヒラ**
電話六二〇番

平町南町
大森醫院
小兒科 醫學士 大森 勇
入院 應需 電話二五八番

貸切は?
親しみあるサービス
以つて知られたる!!
尼子タクシー
電六四〇番
主任 澤 正 路

服んで良くなる
(絶対に胃腸を害さぬ)
**淋病と
消渴の特効薬 濟淋**

平町一丁目
本舗 責任製劑 **水野藥局**
振替貯金口座 仙臺八八七六

和洋金銀 寶屋

價を低く
質を高く
良品廉價は
弊店のモットー

宝屋

平野前 電話二五八番

◎病体改造!!
カイソネーチャ療法の出現

海草蒸熱療法なるが故に従来の物理療法と異り各種病に特効あるは既に定評があります論より証據あらゆる難病者は即時御實驗を乞ふ

特許中山式 (平町大町電話三七一番)
カイソネーチャ警城分院
吉田 五平